

委員評価シートとりまとめ結果

■当日出席委員（9名）

評価点	評 価 内 容
5	事業の内容、実施方法、対象(者)等が適切であり、KPIの達成状況も踏まえ、十分な効果が認められる（又は十分な効果が期待できる）。
4	事業の内容、実施方法、対象(者)等が適切であり、KPIの達成状況も踏まえ、まずまず効果が認められる（又はまずまず効果が期待できる）。
3	事業の内容、実施方法、対象(者)等にやや不備があるものの、KPIの達成状況も踏まえ、一定の効果が認められる（又は一定の効果が期待できる）。
2	事業の内容、実施方法、対象(者)等に不備があり、KPIの達成状況も踏まえ、あまり効果が認められない（又はあまり効果が期待できない）。
1	事業の内容、実施方法、対象(者)等に不備があり、KPIの達成状況も踏まえ、効果が認められない（又は効果が期待できない）。

（評価）

■項目ごとに上記の評価点（5点～1点）をご記入のうえ、今後の事業推進に対するアドバイス等をご記入ください。

評価点 (5点満点中)	項 目
	【1 四万十川の資源を生かす取り組み】
3.7	<p>(1) 流域資源の利活用 (①四万十産アユ活用事業、②地産地商外商推進事業)</p> <p>【今後の事業推進に対するアドバイス等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユ活用事業について、四万十川＝アユのイメージは、ある程度存在すると思われます。その中で「四万十町＝アユ」、「アユ＝四万十町」とするため他市町村との差別化をいかに図れるかが重要かと思えます。（四万十川流域でアユを売り出す市町村は他にも多いと思うので） ・地産地商外商推進事業については、ネット販売で取り扱われている商品は日常使いというよりは、お土産や贈答としてのニーズが高いと思います。それらのキーワードでヒットしやすい設定がされるということではないでしょうか。 ・「あゆ王国高知」振興ビジョンとも連携し、アユの活用事業を推進していただきたい。 ・梶原川周りのカワウがシルバー人材センターの方々の手により追い払われていると聞いたが、何か対策はないのか考える。また、河川環境はウナギにとって良好なのか、研究しつつ良い方向に向かってほしい。 ・R4の取り組みは、四万十町ネット販売推進事業が休止していたせいか、事業としては四万十町に人を呼ぶ事業が多かったと思う。今後はネット販売を軸として、取り組みを進めていくとよいのでは。 ・若年層ならSNSやHPで情報を得ることができるが、高齢者にはハードルが高いと思う。マップの設置場所を工夫してはどうか。 ・資源減少の原因の追究を引き続きお願いしたい。カワウの食害は分かり易いが、90年代にもカワウは居たはずで、根本原因をつぶしていけたらと考える。 ・前年度に課題や対策としてあげた内容については、取り組みの状況と改善策を記述すべきである。 ・動画による宣伝活動は効果的であり、今後も定期的に実施することが大切である。また、動画等の制作にあたっては、町民の方や町の職員でできるだけ実施してほしい。 ・ネットによる物品販売は有効であるため、現在の課題を解決し、販売の再開を実施すべきである。 ・コロナ禍で集客が制限されてきただけに、実績評価は難しいが、アユの取扱量の増加に対応してきた事から成果は出たと思われる。 ・ネット販売は今後も欠かせない。拡大していくべきツールだと思う。

3.8	<p>(2) 観光資源の活用 (①四万十川PRツール作成・利用事業、②受入体制整備促進事業)</p> <p>【今後の事業推進に対するアドバイス等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホビー館等の催しが好評とのことなので、それらのアンケート結果をぜひ活用してほしい。 ・今後PRについては、積極的な展開と体制づくりが重要と感じます。 ・窪川の商店街は大型店におされつつ、客足も少ないが昔からある食堂、コロッケ屋、ラーメン屋をPRして残してほしい。窪川高校生の1年のカレンダーが窪川の小さな店先や駅でみかけるが、良くできていて欲しくなる。商店街に入るには、まず窪川駅が玄関口。観光客を迎えるように美しくするなど、もう一つ工夫をしてほしい。 ・四万十川のPR事業について、デジタルの活用と既存メディアの活用になると思うが、SNSなどの活用は若年層の掘り起こしにつながると思うが、TVの活用もまだまだ全年齢層的に有効だと思う。一部のメディアだけでなく、多くのメディアは活用できないものか。 ・個々の小さな事業所ではPRは難しいと思うので、PRの仕方等を協議し、進めていけたらと思う。 ・TV番組、SNS、異なる媒体を意欲的に活用していると思う。そうした取り組みについては、四万十川の知名度を上げるために必要であり、継続してほしい。 ・事業の成果は一般市民にも分かり易く情報発信をする必要があると思う。戦略的なPR活動は大切であるが、それと同時に旅行・観光における施設を計画的に整備していくことで、観光客や交流人口が増加していくことが期待できる。 ・今後の課題及び対策についてはできるだけ具体的に記述してほしい。 ・ドローンでの町内の空撮は大変良い。見せる機会をどう増やすか。
<p>【2 四万十川流域の豊かな暮らしを育む取組】</p>	
3.6	<p>(1) 資源回復のための取組 (①水産資源回復事業)</p> <p>【今後の事業推進に対するアドバイス等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カワウ対策は成果の検証が難しい問題かと思います。大学等の研究機関に四万十川の資源を守る研究として、調査及び対策方法の検討を依頼することは難しいでしょうか。 ・国内の専門家が科学的なエビデンスのある取り組みなど有効に活用してはどうか。 ・川の資源回復のためには、水の量と山の保護の問題が切っても切り離せないのではないかと。中長期的に見て、針葉樹林が多くなった今、川にどのような影響があるかを検証していく必要もあるのではないかと。 ・アユの食害については、カワウの数を減らす事が必要ではないでしょうか。害鳥として対応できないか。 ・事業の取組で把握できた情報を正しく活用するなど、実行につなげることが大切である。成果を活用し、さらなる発展があるよう工夫改善しながら執行してほしい。 ・川を汚さないことが資源回復の基礎となる。また、流域全体での取り組みは改善の余地がある。関係市町で本気で行動をおこしてほしい。成果や課題、対策が同じでは評価しにくい。 ・アユの基礎調査は大切と思う。また、カワウ対策については、違った手法が必要ではないか。水田においても、シカ・イノシシ・ウサギ等の被害がある。アユもカワウの問題が出たが、専門的な知見を活用しないと対策は難しいと思う。
3.4	<p>(2) 四万十川流域の環境保全 (①環境対策事業、②景観保全事業)</p> <p>【今後の事業推進に対するアドバイス等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もぐにいを通じた活動等で食品ロスの削減に対する認知は一定上がっていると思われます。そのため、啓発のみならず活動の成果をいかに測り、アピールしていくかにも取り組まれてはいかがでしょうか。 ・家庭の巻き込み方について、SDGsだけでなく、様々な分野で試みがあるので、そうした手法について採用されてはどうか。 ・川を美しくするためブラゴミ等の抑制についてこれまで以上に啓発をお願いしたい。 ・住民の意識が大変重要だと思う。そうした啓発には取り組んでほしい。 ・農業用ビニールについては、JAなどで回収しているが、日曜日か平日であり、お金もかかるので、そのあたりを補助できるかどうか検討してほしい。 ・田や畑において、使用済み農業袋を適切に処分したい。川に流れてビニールゴミとなることはないように。四万十川はどこを切り取っても、「一幅の名画」であると思う。 ・この事業に学校教育課も加わったことは評価できる。保護者や地域の方は、児童生徒の発表を通じて知る機会はある。企業や団体等の活動を知ってもらいイベントなどの時に学校の実践発表を組み込むことができればより効果的ではないか。 ・ゴミの流出や農業濁水の防止など、協議の場を出た意見を実行にうつしてほしい。環境保全事業の成果と課題・対策について変化がないので改善してほしい。 ・河川流出ゴミに農業量の袋が多かったとのこと。JAでもハウスビニールなど毎年回収しているが、チラシを作成して農家に配布する等も有効だと思う。

3.6	(3) ふるさと教育事業 (①川ガキ育成事業、②高知大学連携事業)
	<p>【今後の事業推進に対するアドバイス等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学等で一時的に町外に出ても、その後安心して帰郷してね、というメッセージを今のうちから送ってもらえるといいと思います。子育てや医療体制の強化など。 ・地域の愛着についても客観的なデータ取得を試みてはどうでしょうか。 ・地域における子どものコミュニティがなくなってしまってきたので、川に遊びに行くことが制限されている現状がある中で、いかに子ども達に川の魅力を感じさせるかが大切になってくると思う。川で遊ぶ機会を公募して取り組むイベントを増やしてもよいのでは。 ・地元に対する思いを低年齢から教育するとか、介護の資格が取れるとか、何か特色が出せればよいのでは。 ・川ガキ育成事業に関しては、夏休みの河川を子ども達に開放したい。その場合、監視人として高校生や大人が係ることができないか。 ・普段体験することのできない交流の機会を工夫しながら継続的に取り組んでいる。今後においても学習指導要領の新しい学力に沿った取り組みを継続してほしい。学校教育課の事業も実施すべきである。事業の名称については変更することが望ましい。

評価点合計 (25点満点中)	その他全体的なご意見等
18.1	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生に対しても、多角的な取り組みをされているのだと強く感じました。取り組みがどうしても、全町民に等しく恩恵があるわけではないため、その効果を実感することは難しいですが、効果を実感できた人の生の声（アンケート等）が広まれば、町全体の実感に繋がるのではないかと思います。四万十ケーブル等も利用していただき、積極的な発信を期待します。 ・成果に定量的な表現とその考察、定性的な評価を今後ご検討ください。積極的に事業推進している姿はすばらしいと思います。 ・色々な施策により、よくやってくれていると感じる。 ・町の取り組みが一定の成果をあげていると思うが、さらに知恵を集めて進めていってほしい。 ・取り組み自体は良くできていると思う。難しい問題ばかりであるが、各課で連携して取り組んでほしい。 ・原宿表参道や倉敷津野和等、ゴミのない美しい町を参考に「花いっぱい美しい四万十町」を目指したい。 ・評価点については、担当課における自己評価が示されていないので、やや判断が難しい。また、記述による評価でも一定の資料説明で正確に評価するのは難しいと感じる。 ・前年度に課題や対策としてあげた内容については、継続事業であれば、取り組みの状況や改善点について記述すべきかと思う。成果などを数値化できる部分は数値で示してほしい。 ・アフターコロナに乗り遅れることがないよう取り組んでいきましょう。